

2021年度（令和3年度） 関西創価小学校 学校評価

1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、「平和主義、文化主義、人間主義」のグローバルリーダーに

4. スクールポリシー

明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校

5. 中期的目標

(1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ・児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ・「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力（「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」）を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ・学習指導要領総則で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育内容の充実

- ・価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にし、児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

(3) 「世界市民」を育成するための教育内容の充実

- ・「世界市民」育成のために、1. 「世界の翼」となる英語教育の充実、2. 探究型の学習を進め「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む教育を推進する。
- ・英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業の充実を目指す。また、創価タイム(総合的な学習の時間)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

(4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ・Society5.0の社会に生きる児童は、主体的に対応できるための様々な力が要求される。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、Society5.0の社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ・急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

(5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ・遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールへの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ・児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にす意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

(6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ・創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ・授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

(7) 入試広報、児童募集の充実

- ・少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ・学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。
- ・募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用してお願(WEB出願)を活用していく。

6. 本年度の取り組み内容および自己評価

〔1〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業、全員による公開授業の実施 児童や保護者による授業アンケートの実施と活用 授業力向上 WEEK を設け、互いの授業を参観 各教科で授業研修を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が研究授業や公開授業を部会テーマ、個人テーマに基づいて計画的に行う 授業アンケートの内容を見直し、授業力向上のための保護者・児童アンケートを実施する 授業力向上 WEEK を設け、互いの授業を参観できる機会を設ける 各教科部会で授業研修を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいて研究授業や授業研究会を実施、全教員が公開する授業を行う 授業アンケートにおいて児童、保護者の8割以上が授業への満足度を示している 授業力向上 WEEK を設けている 各教科部会で授業研修を推進している 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の状態であったが全教員が公開授業を行うことができた 授業における教員の教え方など9項目にわたるアンケートを児童に実施。全校として、92.8%が肯定的な回答であった。(低学年平均90.6%、高学年平均94.7%) 授業力向上 WEEK を毎月設け、お互いに授業を参観できる体制を組んだ 教育アドバイザーに授業を参観していただき、授業改善におけるアドバイスをいただいた
<p>(2) 家庭学習や読書習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」に示された内容をもとに家庭学習の習慣化を図る チャレンジ図書(学年別課題図書)を設定し、読了を推進 ノーベルタイム、ノーベルトレイン(車内読書)を推進し読書習慣の定着を図る 読みきかせを行い、読書を通して心を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」に示された時間や内容をもとに、保護者と協力して家庭での学習習慣を身につけさせる WEBの学習教材を有効に活用させる。 チャレンジ図書(学年別課題図書)の読了、ノーベルトレイン(車内読書)、スキマ読書、ワンブック運動などを推進する 読み聞かせを積極的に行い読書に親しませる 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」に示された学年の学習時間を学年の8割の児童が達成している 9割以上の児童が、チャレンジ図書(学年別課題図書)を読了している 図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体では、74.7%の児童が各学年の目標学習時間をこえて自宅学習に取り組んでいた。この数値は昨年並みであるが、コロナ禍の影響があるのか、1学期に比べ2学期末の調査では、やや下降傾向だった チャレンジ図書は、1学期は49.0%、2学期は81.3%、3学期は88%の児童が読了した 入学予定者に「読み聞かせリスト」を配布。「プレスクール」として、入学前から読書に親しむ習慣をつける取り組みを行った
<p>(3) 成長保障と学力保障による学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査を活用し、学力に課題のある児童をサポートする 高学年はスペシャルスタディと銘打ち放課後の補習を行う 学力の伸長を図るための研究を行い、授業を改善する 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の学力の確実な定着に努めるとともに、学力に課題のある児童に、WEBの学習教材を有効に活用するなどして、学力保障の取り組みを行う 高学年における放課後の補習を行う 教科別の部会において、授業改善の取り組みを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 学力に課題のある児童に対して、サポートスタッフの教員が補習を行っている [学力調査で課題が認められた児童が対象] 教科部会を設け、児童の課題を明確にし、授業改善に向けて検討している 	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の結果を受け、正答率の低い児童を中心に放課後の補習(スペシャルスタディ)を行った。学年ごとに曜日を決め、担当の教員を明確にして行った サポートスタッフの教員で学力向上の取り組みについて協議を重ねた 授業力向上研修を実施した

〔2〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の心を育む道徳授業を目指しての授業実践 ・授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに、児童の心を育む道徳の授業を実践する ・道徳部会が中心になり、授業研究会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の公開授業を行い、道徳の授業力を高めている ・道徳の授業研究会を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳部会の自主研修会で、授業研究を行い、LGBTQについて4年生で授業を実施した
<p>(2) 児童セーフティネットの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が生き生きと学校生活を送るために、いじめ問題や課題のある児童への対応や協議を重ねる ・児童セーフティネット研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に「学校生活アンケート」を実施する ・不登校や学習障がいなど、課題を抱える児童のケースカンファレンスやいじめに関する研修会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、課題を抱える児童のケースカンファレンスを積極的に行い、年2回以上の児童セーフティネット研修会を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた ・10月に「いじめ・保護者対応」12月は「不登校児への対応」についての児童セーフティネット研修を実施した ・スクールカウンセラー、教育アドバイザーと共に年間で32回のケースカンファレンスを実施。情報収集・分析・考察を重ね児童への適切な対応ができるようにした
<p>(3) 児童の育ちを互いに共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の育ちを促すために、児童指導の情報共有を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活項目の評価表を作成し、児童の育ちを共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・創価の子(通知表)の生活項目について、生活項目の評価表をもとに、指導の目線を揃える 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や研修会の折に、児童の課題についての情報共有を行った ・生活項目について各学年の発達段階に合わせた指導ができるように、学年会で協議した

〔3〕「世界市民」を育成するための教育の充実

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 英語授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年のET(イングリッシュタイム)の充実 ・5・6年生における英語授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のET(イングリッシュタイム)を担当のもとで実施するとともに、英語カリキュラムを充実させる ・5・6年生の英語教科化に伴う英語授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で担任の指導の下、朝のET(イングリッシュタイム)で、教材(Switch on)を活用している ・英語授業の充実のために工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のET(イングリッシュタイム)は定着し、児童は楽しく学習活動に取り組んでいた ・ハロウィンウィークの設定(全学年)4年～6年はハロウィンカードも作成した ・English Weekを設定し、関西創価中学・高校のネイティブの先生方に来ていただき、英語で会話する機会を設けた(1年～4年) ・5・6年生が、第一回創立者杯英語暗唱大会を実施。全員が参加してのクラス予選を勝ち抜いた12名が決勝戦に進んだ。児童の英語への関心が高まった ・6年生を対象にしたフィリピンセブ島

			のオンライン留学も大きな成果があった。
<p>(2) 国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験交流(グローバルキャンプなど)の実施 ・北京第一実験小学校との作品交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流行事を通して、世界市民を育成する国際教育を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルキャンプを実施している(5年生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・創価大学の留学生と交流する5年生のグローバルキャンプをZoomで実施した ・6年生がアメリカ創価大学の学生とZoomで交流を行った。アメリカ創価大学の様子をZoomで映しながら説明をしていた ・コロナ禍のため北京第一実験小学校との作品交流は行えなかった
<p>(3) 生活科と総合的学習(創価タイム)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsをもとにした探究型学習の実践 ・スタートカリキュラムの実施 ・本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた総合的学習の全体計画のもと、生活科と総合的学習の時間をつないでいく ・「平和」「環境」「人権」「開発」などをキーワードにした探究型学習の研究とカリキュラムの編成のための取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに課題を設定する時間を設けて、大単元学習として取り組んでいる ・「ともに生きることを考える世界市民の育成」を目標に、学習のプロセスで探究している 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、校内の自然環境(なかよし農園・平和竹林)を活用し、「春をみつけよう」「秋をみつけよう」の単元で探究型の学習を行った ・2年生は、町探検を実施。新たに12件のお店を訪問させていただいた。コロナ禍だったが、児童は好奇心を増し、もっと学びたいという意欲を持った ・1年生の入学時期に「スタートプログラム」を設け、緩やかに学童期に移行できるようにした ・自然環境や社会事象について、各学年が、SDGsをもとにした探究型の学習を実践し、グループごとに発表するなど、児童は主体的に取り組んだ

〔4〕時代に即した教育の推進

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) メディア教育を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用とプログラミング学習の推進 ・各教科の学習でICT機器を積極的に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を学習に使用したり、情報の時間で情報モラルについて学習したりしている ・プログラミング学習について、授業を行ったり、研修をしたりして理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google クラウドで学習に取り組み、情報モラルについても学習している ・高学年の情報の学習では、プログラミングについて授業を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア教育推進委員会、関西ICT委員会を毎週開催してメディア教育を推進した ・2021年度関西創価小学校情報(プログラミング)教育一覧表を作成 ・ネットワーク接続状況の調査を行い、ネットワーク環境を整備した ・1・2年生は、iPad、HUAWEI製タブレットで学習アプリを使い学習。アンブレグドプログラミングや情報モラルについても学習した。プ

			<p>プログラミングロボット「True True」を使用して、プログラミング的思考を育成した</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生以上はchromebookを配布。各教科でGoogleスライドを活用し、プレゼンテーション能力を高め、「LEGOWeDo2.0」「レゴRエデュケーションSPIKE」「スクラッチ3.0」を使ってプログラミング的思考を育成した
<p>(2) キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、一人一人のキャリア発達を促すための教育を推進 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 三大多行事の振り返りを中心に記録を残した 英知の日に行った「ドリーム・プログラム」で、卒業生の女性消防士から話を伺った 中学校にキャリアパスポートの引き継ぎも行った
<p>(3) 小中連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学へのスムーズな進学ができるようにするためのブリッジプログラムの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携年間計画にしたがって、ブリッジプログラムを行う 中学へのスムーズな移行ができるように小・中の連携を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って、学園ステイ、中学生生活ガイダンス、校長面談を行っている 3学期に連絡シートなどを用い、小中連絡会議を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ブリッジプログラムの一環として学園ステイを6月18日に実施した 6年生一人一人と校長との懇談を行った 小中連絡会議を2月18日に実施した 中学生生活ガイダンスを2月7日に実施した

〔5〕 規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立

今年度の重点目標	具体取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 積極的な児童指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活面における評価指標(生活のようす)をもとにした児童への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階を踏まえた「挨拶」「マナー」「ルール」の指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 通学時には、進んで挨拶し、「思いやりノートーク」を行っている 生活面における評価指標を定めている 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会と学級指導を中心に通学マナーやルールについて、また、校内の安全について指導した(挨拶、走らない等) 評価指標をもとにした、学年の発達段階に合わせた指導を検討していきたい
<p>(2) 健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のための十分な対策を取り、児童の健康管理に努める 健康増進、抵抗力をつけるための食育の充実と積極的な体力づくりの推進 保健室の利用状況の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 児童部やコロナ対策委員会を中心に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための十分な対策を行う 食育の全体計画や、体力向上計画に沿って、教科と連動する授業を行ったり、各種の体育的な大会を実施したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会で児童に感染防止についての指導を行っている 手洗い、うがい、黙食を励行している 2か月に1回、食育委員会を開催し食育の充実を図っている 学年に応じた食育の授業を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会では、養護教諭や児童部長から、手洗い、うがい、消毒、黙食などの基本的な感染防止対策について指導した コロナ対策委員会を中心にコロナ対策会議を実施した 小中高で対策を検討、情報共有を行った

	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童の身心の健康状況を把握するために、情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに、各種の体力向上の取り組みを行っている ・児童の心身の健康状況を把握するために、情報を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内各所、椅子、机等は、抗ウイルス抗菌コーティングを施した ・朝会では、養護教諭・児童部から、感染防止について指導した ・2か月に1回、食育委員会を実施。食育の授業の情報共有、食に関する児童の課題を検討した ・給食トークや給食クイズで児童に食に関する情報を提供した ・児童が考えた献立を給食で提供した ・水泳は児童の体力増進のために必要であることから、感染防止対策をとり、クラス別に実施した ・従来行っていた縄跳び大会や持久走・マラソン大会は感染防止のため、形態を変えて行い、児童の体力向上に努めた ・保護者からの欠席報告、また、保健室の利用状況は全教員が閲覧できるようにした。児童の心身の健康状況を全教員で共有した ・校内傷病者発生状況の分析も行った
<p>(3) 安心・安全の指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火、防犯、防災等の教育の強化 ・日常的な安全指導の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、安心・安全のための指導・訓練を実施し、意識を高める ・なかよし会（地域別児童班）の意義を再確認し、地域別指導を行う ・生活時間帯を遵守するための取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を行っている ・早期下校訓練をなかよし会（地域別児童班）で実施している ・生活時間帯を遵守するための取り組みを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をとりながら各種訓練を行った ・今年は、なかよし会の話し合いを実施。コロナ禍のため、なかよし会による早期下校訓練は実施しなかった。 ・1・2学期は、手洗いの時間を確保するため、業間を5分にしたが、3学期からは、通常時間帯に戻し、チャイムを守るよう児童に徹底した

〔6〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善 [研修の充実と業務改善]

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) キャリア研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修や青年研修など、年代別のキャリア研修を実施し、教育力を高める ・管理職による新任研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修会・青年研修会を年間計画に則って行う ・管理職による新任研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の初任者研修会・青年研修会を行い、教師力を高めている ・管理職による新任研修の実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修会・青年研修会を通して、授業における工夫や児童対応のあり方について協議した ・学期ごとに管理職による新任研修会を実施した
<p>(2) 教育力向上の研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修へ積極的に参加したり、校外の講師を招いての研修を行ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての研修を年2回以上行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数研修に外部講師を招き2学期までに3回実施した

<ul style="list-style-type: none"> ・校外から講師を招き、教育力を高める研修を年間計画に沿って実施 ・教育アドバイザーによる研修の実施 ・各自が研鑽した内容を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育アドバイザーによる研修を実施する ・各自が研鑽した内容を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育アドバイザーによる研修を実施している ・各自が研鑽した内容を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育アドバイザーによる週3日の授業参観を実施。参観後のアドバイスが教師の授業力向上の糧となっている ・教員の授業内容を共有できるように、動画を活用するなど、今後は工夫をしていきたい
<p>(3) 教務システム更新に伴う業務改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務システムを活用し、より効率的な業務を遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末機使用による会議等の効率化を図る ・書類の標準化や会議のルールを徹底し、会議の価値化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務システムの活用で教務作業の負担を軽減している ・業務改善に努力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務システムの導入により、「創価の子」(通知表)の作成や、指導要録の作成が効率化した

[7] 児童募集・家庭との連携の充実 [地域・家庭との連携]

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 募集行事・広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報ツールの充実 ・オープンスクールなどの参加方法を工夫し、満足度の高い募集行事を行う ・入試サポート miraicompass を導入し、学校の情報提供を行う ・「関西創価小学校 きっずくらぶ」を開設、未就学者の登録を促し児童募集につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ツールの充実と、魅力的なオープンキャンパスなどの児童募集行事を行う ・児童募集並びに入試サポートのために miraicompass を導入し学校の情報を提供する ・「関西創価小学校 きっずくらぶ」を開設し、未就学児の登録を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや SNS などを効果的に活用し、体験授業・体験給食などを実施し、募集活動の充実を図っている ・miraicompass を活用し学校の情報を提供している ・「関西創価小学校 きっずくらぶ」を活用し、児童募集につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童募集部や学園の入試広報委員会を中心に、ホームページや SNS などを効果的に活用し、児童募集に努めた ・miraicompass を活用し、受験生の情報を収集。受験システムの改善を行った ・「関西創価小学校 きっずくらぶ」を開設し、動画や教育コラム等を配信。募集行事のお知らせを積極的に行った
<p>(2) 家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メルポコを使用した家庭連携の迅速化 ・保護者ポータルサイトを活用し情報を提供 ・遅刻・欠席連絡フォームの活用 ・保護者オンライン講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にメルポコを使用して、保護者にお知らせや学校の行事予定等を発信する ・保護者ポータルサイトに、保護者に有効な情報を提供する ・欠席・遅刻連絡フォームを整備し、保護者に通知、活用してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとにメルポコで行事予定や学校情報を発信している ・保護者ポータルサイトに学校からの情報を提供している ・欠席・遅刻連絡フォームを保護者ポータルサイト上に整備、保護者が活用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事予定は前月の20日にメルポコで発信 ・コロナ禍における学校生活の対応について、書面並びにメルポコで情報を発信 ・保護者ポータルサイトに保護者へのお知らせを掲載し、常時学校からの発信内容を確認していただけるようにした ・Google classroom を活用して連絡事項を伝達した ・欠席・遅刻連絡フォームをコロナ対応に変更した

7. 自己評価の結果と分析

自己評価の結果と分析

〔1〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実

- 本年度も授業力向上のために各教員が研鑽に励んだ。各教科における自主研修も活発に行われた。外部講師を招いての研修から学んだことも多かった。また、毎月、「授業力向上 WEEK」を設け、お互いの授業を参観したり、教育アドバイザーに指導・助言を求めたりするなど、授業改善に努めた。その結果、児童に行った「授業についてのアンケート」では、92.8%の肯定的な回答が寄せられた。明年度も、児童が主体的に学習に取り組める授業形態を模索し、児童にとって、「分かりやすく楽しい」と感じられる授業を目指していきたい。更なる授業力の向上に努めていきたい。
- 家庭学習については、学年の目標時間数を8割の児童が達成することを目指してきたが、児童へのアンケートによると75.0%の児童が目標時間を達成したという結果であった。「がんばり表」を配布し、家庭と連携をとりながら家庭学習を定着させるよう工夫した学年もあった。基礎学力の定着のためにも、家庭と連携を密にしながら、家庭学習の習慣を身につけさせたい。
- 漢字の定着を目指して取り組んでいる漢字検定は、ほぼ全員が合格する成果をあげ、取り組みの結果が見られた。
- 学習の基礎となる読書への取り組みについては、9割以上が「チャレンジ図書」（学年別課題図書）を読了することを目指してきたが88.0%が読了するという結果であった。ノーベル図書館での1年間の貸し出し冊数は、27529冊で、昨年より約4000冊多かった。良書に親しむことをもっと児童に勧めていきたい。
- 入学前から読み聞かせに取り組んでいただけるように、本年度より「読み聞かせリスト」と「読書ノート」を合格者登校日に配布した。家庭での読み聞かせを推奨するために、読み聞かせの重要性を保護者に伝えていきたい。伝統になっている「ペアード・リーディング」を今年度も実施。高学年が低学年に優しく読み聞かせを行ってくれた。読書の時間や国語の時間にも「読み聞かせ」を行っていきたい。
- 標準学力調査の結果を受け、高学年の学習に課題のある児童を対象に「スペシャルスタディ」と銘打ち、学年ごとに曜日を決め、放課後の補習を行った。単元テストで高得点がとれるようになるなど、学習内容の定着を図ることで、学習への自信を深める児童も増えた。
- 教員の努力のもと、コロナ禍における学力保障の対応として、対面授業と合わせてオンライン（Zoom）によるハイブリッドの授業を行った。コロナ禍で学習活動に制限が多かったため、学力の定着には課題が残ったように思う。

〔2〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進

- 児童の心を育むために、道徳教育を重視。4年生では、LGBTQについての授業を実施した。児童の人権意識を高める機会になった。道徳の授業を通して、お互いの個性を尊重することや自分の役割を果たすこと、他者への奉仕についてなど話し合いながら学習した。これらの学習は、児童の人間性を育むために重要なことであると実感した。
- 児童が安心して学校生活を送れるよう、いじめの早期発見のために、「学校生活アンケート」を実施。心配な事柄は、児童への聞き取りを行った。児童セーフティネット研修を重ねたことで、教員が児童に適切な指導・助言を行えるようになってきた。
- スクールカウンセラーや教育アドバイザーを交えてケースカンファレンスを年間で33回実施した。ケースカンファレンスでの検討を活かし、医療との連携、継続的な保護者との面談など児童に適切できめ細かな対応ができた。
- 児童一人一人の人間性を尊重できるように、全教員が児童の情報を共有し、チームになって状況を把握し、対応に努めることができた。今後もチームでしっかり取り組んでいきたい。

〔3〕「世界市民」を育成するための教育の充実

- 外国語活動・英語教育を充実させるために、様々な取り組みを行った。1年生から4年生まではEnglish Weak を設け、関西創価中学・高校のネイティブの教員に来ていただき、英語で会話する機会を設けた。外国の文化に親しむために、ハロウィンウィークを設定。カードの作成などの作業を通して、異文化を学ぶことができた。5・6年生を対象に、第一回英語暗唱大会を実施。全員が予選に参加することで、英語への関心が高まり、英語学習への意欲が向上した。6年生を対象にしたオンライン留学も大きな成果があった。
- 創価大学の留学生とオンラインでつながる「グローバルキャンプ」（5年生）やアメリカ創価大学の学生とのオンラインでの交流会（6年生）を行った。留学生やアメリカで学ぶ学生との交流は、世界を意識できる貴重な経験になった。
- 生活科や創価タイム（総合的な学習の時間）では、自然環境や社会問題などについて探究型の学習を行った。SDGs について自分たちが調べたことをグループごとにまとめて発表するなど、児童は主体的に学習していた。世界や未来を見据え、今、自分たちにできることは何なのかを考える学習となった。探究学習を通して世界市民としての素養を育てていきたい。また、明年は、ユネスコスクールチャレンジ校として、世界の子どもたちとの交流も積極的に行っていきたい。

〔4〕時代に即した教育の推進

- 1年生・2年生は iPad と HUAWEI 製タブレットを、3年生から6年生までは、Chromebook を全員に配布。校内のネットワークの環境も整備し、学習活動で活用した。情報モラルやアンプラグドプログラミングの学習とともに、1・2年生は学習アプリを使っての学習やプログラミングロボット「True True」を使用してプログラミング的思考を育成した。3年生以上は Google スライドを活用し、プレゼンテーション能力を高めることができた。また、「LEGO WeDo2.0」「レゴR エデュケーション SPIKE」「スクラッチ 3.0」を使って、プログラミング的思考力を育成した。これらの教具が整ってきたため、本年度は、プログラミング教育を大きく進めることができた。今後はさらに、iPad、Chromebook を各教科の学習で使用することや、家庭学習で使用することを検討していきたい。
- キャリアパスポートを活用し、児童が活動を振り返るための記録を残した。11月の「英知の日」には「ドリーム・プログラム」として女性消防士として活躍する卒業生の話を聞かせていただいた。児童の将来に大きな影響を与えるこのような機会は、もっと増やしていく必要があると感じる。
- 小中ブリッジプログラムとして、6月に関西創価学園での「学園ステイ」を実施。中学進学への希望を膨らませることができた。コロナ禍のため、例年は1泊2日で行っているが、今年度は日帰りであったが、充実した内容とすることができた。2月には、中学校の教員に来校していただき、中学進学ガイダンスを行った。中学校生活についての説明やアドバイスを受けることができ、6年生の質問にも丁寧に答えていただいた。児童が安心して中学校に進学できるように、学園ステイ以外にも、中学生と触れ合える機会を設けていきたい。
- 中学校の教員が来校し、授業参観をしたり、小中の養護教諭や小中のスクールカウンセラーが情報を交換したりすることを通して、中学校の教員が児童の状況を把握できるようにした。
- 教員間の情報交換も含め、小中の連携をさらに密にしていける必要がある。

〔5〕規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立

- 新型コロナウイルスの感染を防止し、児童が安心して学校生活を送れるよう、毎週の朝会で基本的な感染防止対策について徹底した。「健康チェックカード」による体調管理、サーマルカメラ設置による朝の検温、マスクの着用、手洗いの励行、教室の換気などの対策を行い、感染防止に努めた。校内の施設、机・椅子など児童が触れるところは全て、「抗ウイルス抗菌コーティング」を施した。集いや行事は、体制を変更しながら、コロナ禍であっても児童が充実した学校生活を送れるよう実施した。

- 水泳は児童の体力増進のために必要であるため、感染防止対策をとってクラス別で実施した。少人数の良さを生かして、泳力を高めることができた。冬季は体力増進のため、体育の時間に持久走を行い記録会につながった。縄跳び大会はグループでの種目は行わず、個人種目のみで行った。
- 自然災害や火災などを想定しての避難訓練は、密をさける体制で実施した。
- 生活指導にあたっては、「他人の不幸のうえに自分の幸福を築くことはしない」との学園の精神を体得できるよう、他者には思いやりのある行動をとっていくことが大事であると指導を重ねた。車内や駅のホームでのマナーについては引き続き指導が必要である。

〔6〕教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善

- 初任者研修会・青年研修会を通して、授業改善や児童対応のあり方について協議した。
- 教育アドバイザーによる週3日の授業参観は、授業力向上の糧になっている。
- 外部講師による算数研修は大変充実したものであり、具体的に教示いただけたので、すぐに授業に生かすことができた。
- 互いの授業を参観することは学びが多いため、動画を活用するなどの工夫も検討していきたい。
- コロナ禍のため、私小連の研修などは実施されなかった。
- 教員の資質・能力向上のための研修は更に充実させていきたい。
- 教務システムの導入により、教務作業の効率化は図れてきているが、コロナ対応による業務が増え、教員の多忙感はぬぐえないものがあった。

〔7〕児童募集・家庭との連携の充実

- 幼児を対象にした「関西創価小学校きつづくらぶ」を開設した。動画や教育コラム等を配信したりグッズを送ったりしながら、積極的に児童募集を行った。
- 関西学園事務局の協力も得ながら、入試サポートシステムである、「miraicompass」を活用した。
- コロナ禍のため、オンラインによる学校見学会も行った。感染防止対策をとり、来校いただいでの見学や説明会も実施した。
- 学校の取り組みや連絡事項は、「メルポコ」を活用してお知らせした。コロナ禍であったため、お知らせが多く、頻繁に「メルポコ」を発信した。保護者ポータルサイトには、学校からのお知らせを常時掲載。また、今年度からは、保護者 Google Classroom を作成し、学年や学級からのお知らせも積極的に発信した。保護者 Google Classroom は、欠席者への連絡としても活用している。
- 授業公開が開催できず、保護者の方が児童の様子を見ることができなかつたため、3月にオンラインによる授業公開を行った。カメラを複数設置して、可能な限り児童の顔や発表の様子が映るように工夫して配信を行った。
- 保護者の方々からの協力も得ながら、児童募集を推進していきたい。

8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・計画・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

(1) 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が掲げている学校教育目標は、小・中・高の一貫性を踏まえ、可能性の育成・心の育成・世界市民の育成と、ポイントを三つに集約し、まとめたものである。この目標は、創価学園のミッション・関西創価学園育成ポリシーを視野に入れ、児童の健全な成長にとって適切かつ重要なものであると考えている。今後も発展的に継続する目標として掲げていきたい。とともに、目標に示した各項目については、さらにその成果を上げるための計画および具体的な方法や評価方法を検討していきたい。

(2) 今後の改善方策

① 確かな学力の育成のための「各種取り組み」の充実

[授業力向上、三者協力(児童・教師・保護者)による学力の向上、学力の定着(学力保障)の強化]

確かな学力の育成のために、毎年4月に実施する標準学力調査の結果を分析し、教員で共有する。本校の児童の弱点を明確にして弱点を克服していくための手立てを考えていきたい。また、「授業力向上WEEK」には、積極的に他の教員の授業を参観し、互いの授業力を高める機会にしていきたい。更に、本校の教育アドバイザーに授業を参観していただき、授業改善のためのアドバイスも受けていきたい。教師一人一人が授業力を向上させることが、児童の学力向上につながると考える。学年が掲げた家庭学習の時間が定着するよう、児童への指導と共に家庭との連携も密にしていくことも今後の課題として取り組んでいきたい。放課後の学力保障(スペシャルスタディ)の時間も活用しながら、児童が「学ぶ喜び」、「できる喜び」を味わうことができる取り組みを実践していきたい。

② 豊かな人間性を育むための「心の教育」の充実

[読書教育の推進、特別の教科道徳の実践、児童セーフティネットの充実]

心を育む教育を充実させる手立てとして、読書教育の推進に取り組んでいく。良書に親しむことを折々に訴え、良書に親しむことが国語科の学習の深化に連動していくような取り組みを目指していきたい。また、児童の人間性を育むためには、道徳の授業を充実させることが重要になる。道徳部会が中心になり、授業の実践事例から学んでいけるようにしていきたい。更に、教員の研修が生活指導の向上につながるため、児童セーフティネット研修では、教員のディスカッションの時間を積極的に設けながら、いじめ・不登校・課題児への関り方の手立てを考えていきたい。

③ 「世界市民」を育成するための教育の充実

[英語学習の充実・総合的な学習の研究推進]

毎朝行っている英語の短時間学習(モジュール学習)である「イングリッシュタイム」の内容を検討し、充実を目指していく。高学年(5・6年生)の英語教育の充実を図っていくために実施する「暗唱大会」を更に充実させていきたい。創価タイム(総合的な学習の時間)で積極的に情報(プログラミング)教育の学習を行い、「世界市民」の育成という観点を視座に学習活動を展開していく。探究型の学習形態を視野に入れた、創価タイム(総合的な学習の時間)のあり方について、創価タイム部会を中心に検討していく。

(3) 今後の学校運営のあり方

創立精神や教育方針を根幹に、「明るい子」「思いやりのある子」「ねばり強い子」を育成していくために、児童が安心して学校生活を送れるよう、安全管理に努めていきたい。引き続き、学ぶ喜びを実感できる授業を目指して、授業改善には積極的に取り組んでいく。そのために、教員が研鑽を重ね、授業力を向上させることができるよう、働き方の改革を図っていく。また、児童自身が抱える様々な課題(発達課題・学習課題)については、家庭と連携をとりながら、丁寧に対応していく。教育アドバイザーやカウンセラーの助言も受け、カンファレンスを重ねていきたい。今後も、教育内容の一層の充実を図り、教員が資質向上に努めていける学校運営に取り組んでいきたい。

以上